



よもぎ漢方
醗酵乳酸菌

乳酸堂



よもぎ乳酸菌

プロバイオティクス製剤

機能性飼料 A-飼料

—牛用—



日本初！



沖縄で育った乳酸菌で、腸から健康に。

よもぎ乳酸菌の特徴

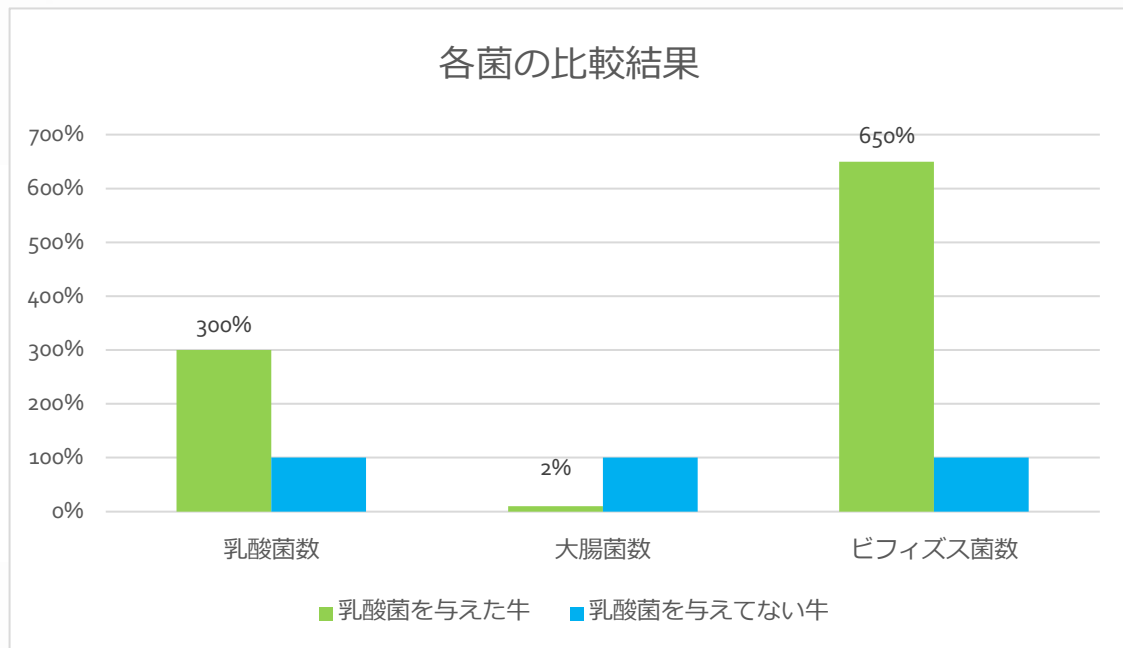
よもぎ乳酸菌は植物性乳酸菌（ラクトブランチラムノーサス YL399 株、ラクトブランチバチルスプラントルム YL198 株）を主な有効成分とする機能性飼料です。

薬用よもぎは沖縄の紫外線が強い環境で育つため、自らの細胞を守ろうとする働きがあり、その結果、従来のよもぎより抗酸化作用の強い乳酸菌が生まれます。

植物性桿菌のため通常の乳酸球菌に比べて発酵力が強く、胃酸などで消化されにくく、生きたまま腸まで届きます。
1g あたり 50 億個以上も乳酸菌が働く事によりアミノ酸やビタミンといった有機分子の生成が促進されます。

子牛によもぎ乳酸菌を与えた結果

よもぎ乳酸菌を毎日 20 ml 与えた研究結果



乳酸菌数の増加による効能

腸内フローラのバランス改善と免疫力向上 乳酸菌が増えることで腸内環境が整い、消化機能の向上や便秘改善が期待できます。また、免疫力が強化され、体全体の健康維持に役立ちます。

大腸菌数の減少による効果

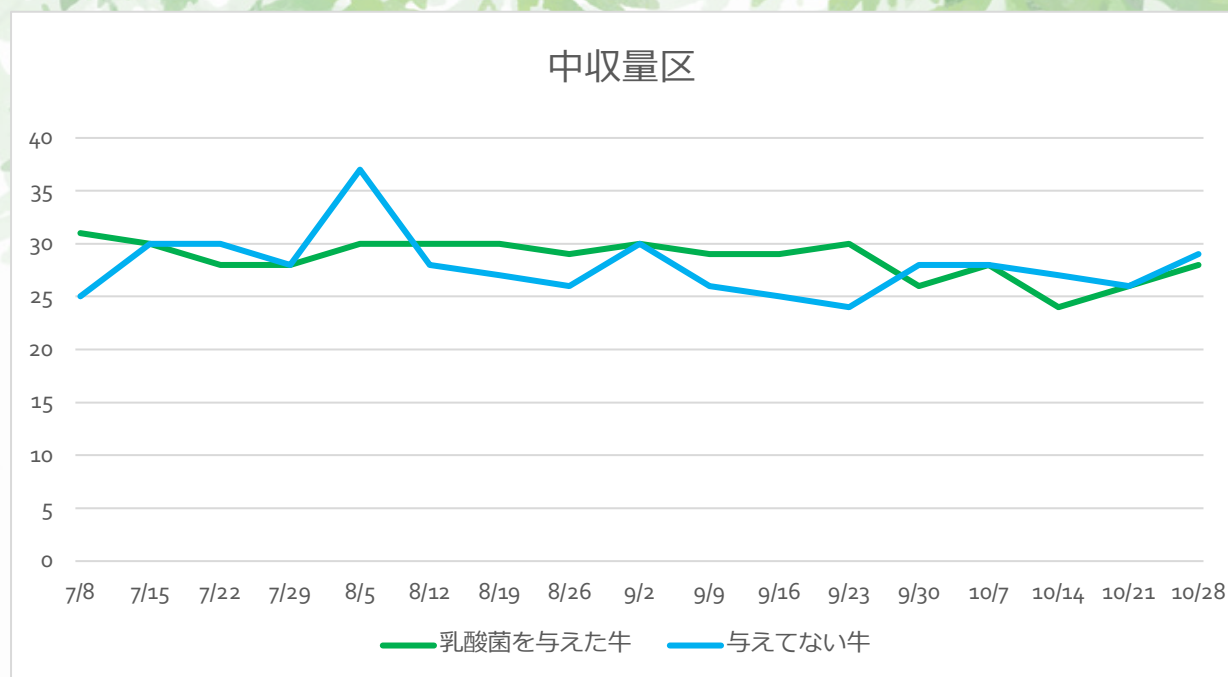
有害菌の抑制と消化不良の軽減 大腸菌数が減ることで、悪玉菌の影響が抑えられ、消化不良や下痢などのトラブルが軽減されます。また、腸内フローラが改善され、全身の健康にも良い影響を与えます。

ビフィズス菌数の増加による効果

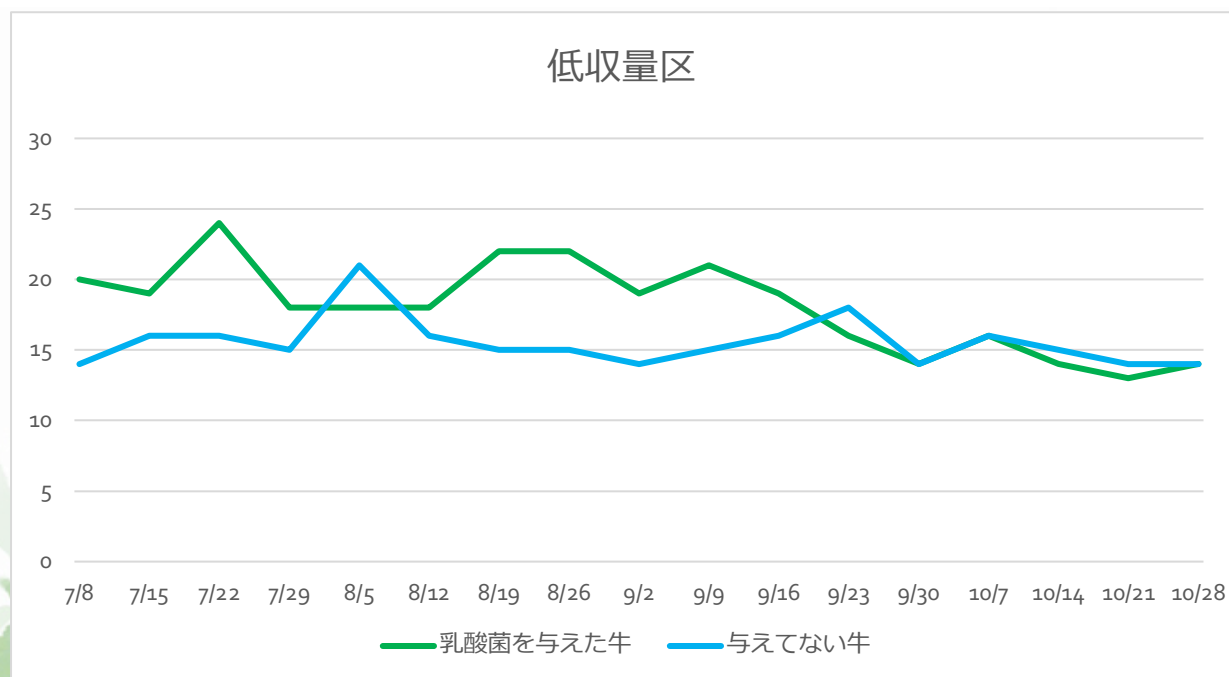
ビフィズス菌の増加は、牛の消化機能を改善し、免疫力を強化します。また、アンモニア臭の低減や腸内の病原菌抑制により、抗生物質の使用を減らすことが可能です。飼料効率を向上させ、成長や乳量の増加を促進します。これにより、牛の健康と生産性の向上が期待できます。

乳牛のミルク搾乳量に関する検証結果

乳牛 1 頭当たり 30 ml のよもぎ乳酸菌を与え 7/8~10/28 の間の搾乳量の比較



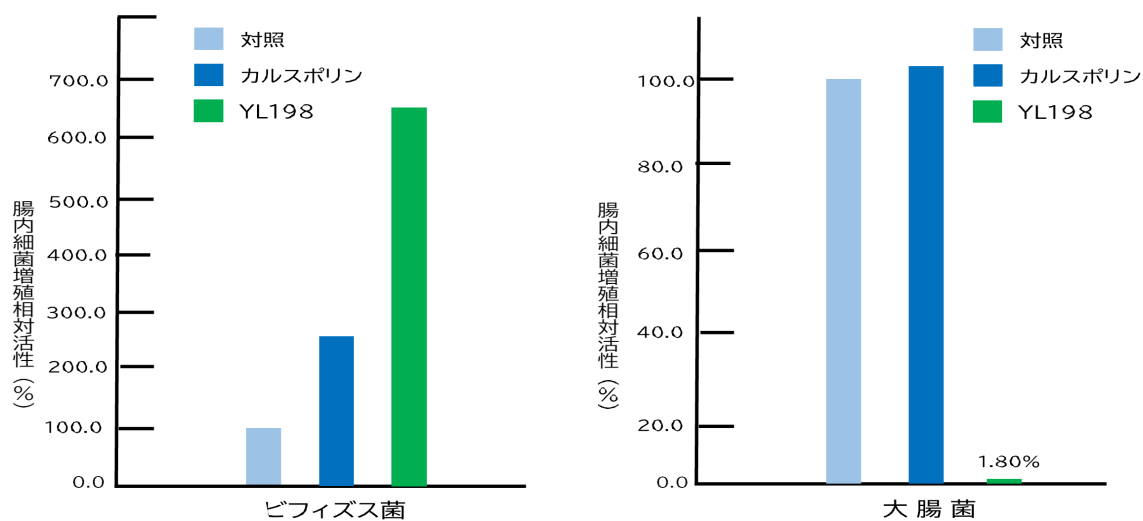
中収量区、1 頭あたりの平均 1 日収量は **27.1 L** から **29.3 L** に増加し **約 7%** 増加した。



低終了区、1 頭あたりの平均 1 日収量は **14.77 L** から **17.75 L** になり、**約 20%** 増加した。

他社との比較

■ カルスポリンとよもぎ醗酵乳酸菌 YL198株の
有用菌、有害菌の増殖評価比較



* カルスポリンのデータはカルスポリンの社内資料から抜粋。
* YL198のデータは食環境研究所での試験結果より

摂取量

- ・ 子牛（離乳期～9ヶ月齢）与える場合 **1頭につき20ml/日**
- ・ 肥育牛（成牛）に与える場合 **1頭につき30ml/日**
- ・ 搾乳牛に与える場合 **1頭につき30ml/日**

※牛の増体や体調に合わせて、調整をお願いします。。



よもぎ漢方
醗酵乳酸菌

乳酸堂

[https:// www.nyusando.com/](https://www.nyusando.com/)



お問い合わせ窓口：098-800-1031

info@nyusando.com

- ・ 製品のご購入についてのご相談
- ・ 事業提携の相談

直接弊社までお問い合わせください。